卒業論文を書くということ

- テーマを決め、関係する論文や文献を探し、史資料を集め、意味を調べて解読し、分析してデータ化や概念図化し、構成を考えて、文章化する
- ４年間の学びの集大成であり、自分史のモニュメント
- 史資料の収集→解読･分析→文章化の技能を身につけることこそが重要

日本史専攻のカリキュラム

近世史卒論への工程
東海大学の場合

講義科目

日本史概説

日本近世史講義

日本近世史特講(政治)

日本近世史特講(社会)

演習科目

日本史基礎講読（漢文）

各人演習

日本近世史講読

日本近世史基礎演習

日本近世史演習(政治)

日本近世史演習(社会)

卒業論文基礎１

卒業論文基礎２

卒業論文

レジュメ
発表
（グループ）

レジュメ
発表
執筆

副科目

歴史総合講座

歴史の見方

日本史研究入門

古文書学

図像資料学

古文書講読

日本史情報処理

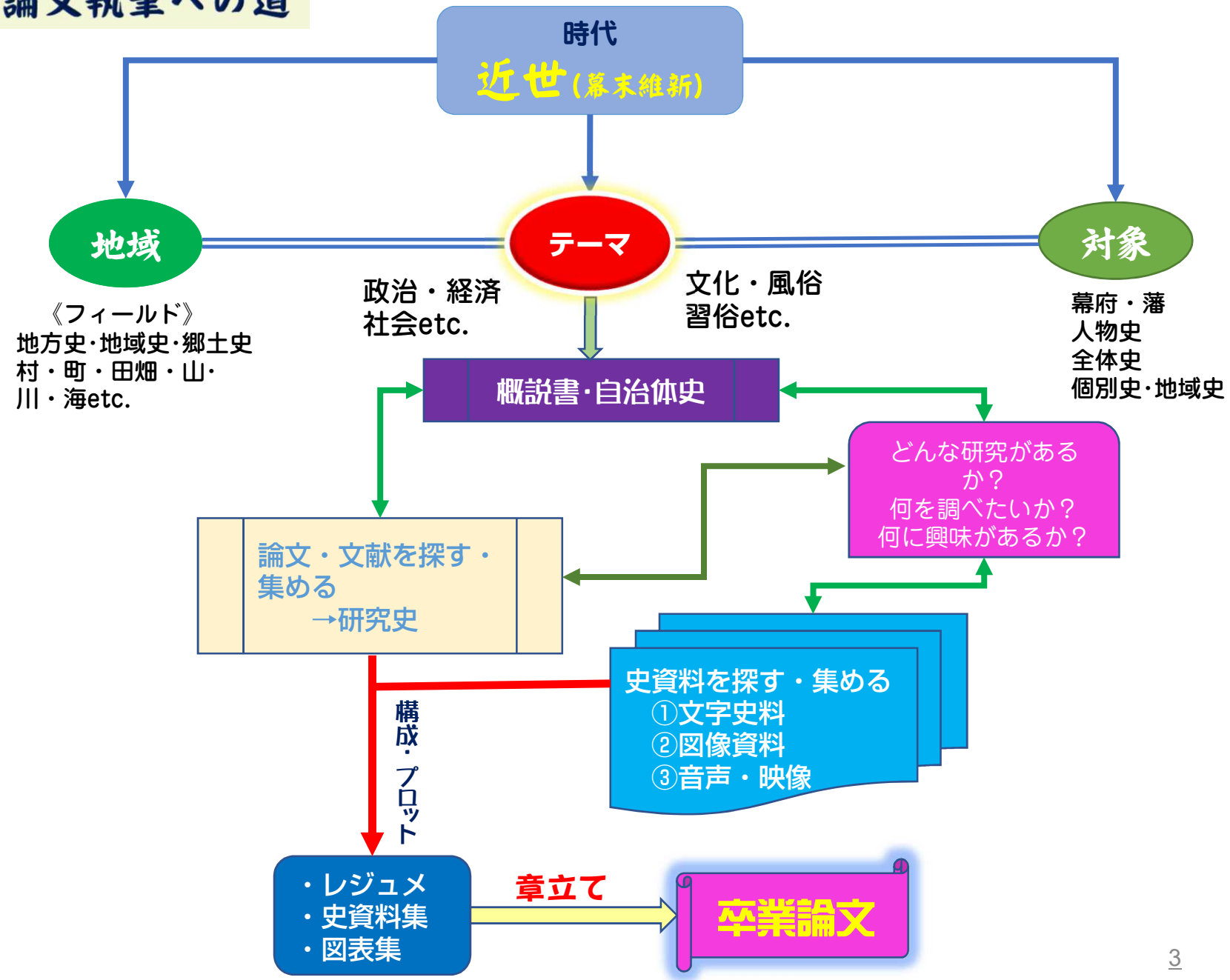
地域史方法論

地域史演習

史料管理学演習

セッション科目

卒業論文執筆への道


時代
近世（幕末維新）
地域
テーマ
対象
《フィールド》
地方史･地域史･郷土史
村・町・田畑・山･
川・海etc.
政治・経済
社会etc.
文化・風俗
習俗etc.
幕府・藩
人物史
全体史
個別史･地域史
概説書･自治体史
どんな研究があるか？
何を調べたいか？
何に興味があるか？
論文・文献を探す・集める
→研究史
史資料を探す・集める
①文字史料
②図像資料
③音声・映像
構成・プロット
・レジュメ
・史資料集
・図表集
章立て
卒業論文

歴史を書くということ！

テーマの設定

① 興味・関心のあるテーマや問題
② 論文化の可能性

研究史の整理

① 先行研究の収集 → 論文・文献目録
② 先行研究の読解・分析
③ 先行研究に対する自らの見解の整理

史料の分析・研究

① 史料の収集 → 史料目録
② 史料の読解 → 現代語訳と解読・解釈・比較
③ 史料の分析 → 史料批判
④ 史料の加工 → 図表化・グラフ化 → 概念図

- プロットー筋立て
- アウトラインー全体構成
- 章立て案

論文・著書の作成

① 課題の再検討
② 論点の整理
③ 構成（全体・各章・各節）や展開の再検討
④ 下書き
⑤ 推敲・校正・修正
⑥ 成稿

卒論執筆への道程

【テーマを設定する】

①関心のある時代や問題に関する比較的やさしい文献を読んでみる
・入門的文献（概説書、新書、叢書、選書類）、講座など
②興味・関心をもった問題や疑問点等を抜き出して整理してみる
※卒業論文のテーマとすることができるかどうかの判断基準
a.関連する史料の質と量
関連する史料の量が乏しいテーマは無理と判断
b.先行研究の到達度

＊議論する余地がないテーマは執筆は困難→見極め

【研究史を整理する】

①先行研究の収集
1.論文・文献目録の作成
2.先行研究論文・文献の収集
②先行研究の読解・分析
1.各論文の要約と主旨の整理
2.疑問点・問題点の抽出
③先行研究に対する自らの見解の整理
1.論文の課題や目的の提示
2.方法論の提示

【史料を読解･分析･研究する】

①史料の収集
1.先行研究の利用
2.史料集や自治体史等→活字になった史料
3.史資料保存機関等にある古文書
4.個人蔵の古文書
②史料の読解
1.読み下し→現代語訳
2.史料の意味・内容を分析
③史料の分析
1.史料批判
2.情報の抽出 → 要約
3.情報の整理・分析・統合
→ 図表化・グラフ化・概念図
※史料はすべて手元に！
※史料に関する情報は、すべて記録する！

・プロットー筋立て
・アウトラインー全体構成
・章立て案ー具体的に
↓
修正

【卒業論文を執筆する】

①課題の再検討
②論点の整理
③構成（全体・各章・各節）や展開のアウトライン決定
④下書きに着手
⑤推敲・校正・手直し
⑥成稿

必要なのは総合「知」

- 史料を読む力、分析する力
- 歴史学の一般的知識、思考力
- 専門分野に特化した知識
- 文章構成力と執筆力

◆ 調べ方の習得に向けて

- 紙媒体、デジタル媒体に限らずあらゆる情報を活用 → 主体的に調べる力
- 問われる情報リテラシーと質問力